

よろこんではたらく子ども

「きょうは、とつてもうれしいおはなしをします。」

あさのかいどきに、せんせい、にこにこしながら、おっしゃいました。

(なんだろう。)

とおもっている、せんせいは、れんらくノートを、よみはじめられました。

きいているうちに、

(あっ、わたしのだ！)

とわかり、わたしは、はずかしくなって、下をむいてしまいました。



れんらくノートには、きのう、わたしが、いえのでつだいをしたことが、かいてありました。

「一ねんせいになって、こんなに大きくせいちょうしたかとおもうと、とつてもうれいですと、えつこさんのおかあさんは、かいていらっしゃいます。せんせいも、これよんで、うれしいです。みんなが、だんだん、わたしたちのめあての一つ、よろこんではたらく子どもにちかづいているので、せんせいは、にこにこです。」

「よろこんではたらく子ども」、とつてもいいことばでしょう。わたしは、このことばが、だいすき。

こうちようせんせいが、二がっきのしぎょうしきの日、「こんな、こどもになろう。」



と三つのことをおっしやいました。その中の一つに、この「よろこんで、はたらくこどもになろうね。」というのが、ありました。

だから、わたしは、いつも、このことばをおもいだしてがんばっています。

わたしだけでは、ありません。一ねんせいのみんなが、そうです。

「ごみすてにいつてくれる人。」
と、せんせいが、いわれると、みんながてをあげます。

ときどき、しごとをとりあって、けんかになることもあります。

「しごとをしてくれるのは、うれしいけれど、けんかは、だめよ。」

せんせいは、おこるけれど、でも、とつてもうれしそう。

(みんなも、「よろこんではたらくこども」をめあてに、がんばっているんだなあ。)とおもいました。

だから、いえのてつだいも、すすんでしたのです。ふきそうじ、きゅうりのしおもみ、せんたくものたたみ。いやいやしたら、「よろこんではたらくこども」にならないので、じぶんから、すすんで、いっしょうけんめいしました。

みんなのまえで、せんせいからほめられて、ますますやるきが、わいてきました。

「よろこんではたらくこども」、このことばを、いつもわすれずに、がんばります。